

令和2年5月28日  
農推第1189-2号

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

雨の多いこの時期は病害が発生しやすくなります。気象情報に注意して予防的防除に努めましょう。

## 特に発生に注意

## 水稲

## スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

- ・田植直後から約20日後までに加害されることが多いです。
- ・ピンク色の卵塊を発見した場合は、ビニール手袋などを使用して水中に掻き落としましょう。
- ・水深4cm以下では苗の食害が少なくなるので、田植後の浅水管理が有効です。
- ・田植え直後にスクミンベイト3、スクミノン、ジャンボたにしくんなどを散布して食害を防止しましょう。

## もも

## せん孔細菌病

気象情報に注意し、雨風が強まる前に予防的に農薬散布しましょう。

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・6月～8月が成虫の発生時期です。ほ場を見回って、見つけ次第捕殺しましょう。また、本種が発生している園では、成虫に対してモスピラン顆粒水溶剤などを散布しましょう。
- ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフード、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとりましょう。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻きましょう。

## 果樹類全般

## 果樹カメムシ類

- ・チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害します。
- ・園全体を目合4mmのネットで覆うと侵入を防止できます。
- ・発生を認めたら、アディオン乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）を散布しましょう。

## なす

## 灰色かび病

- ・20℃くらいで多湿のときに発生しやすいので、換気を図り多湿にならないようにしましょう。
- ・発生を認めたら、被害果等を施設外に出して、パレード20フロアブル、ピクシオDFなどを散布しましょう。



灰色かび病の病斑



クビアカツヤカミキリのフラス

次回の情報は6月末にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

## 水稻

### いもち病



葉いもち

#### 特徴

- ◆低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

#### 防除のポイント

- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆発生が予想される場合は、ビームプリンス粒剤やブイゲットフェルテラチェスL粒剤、ツインターポフェルテラ箱粒剤などの箱施用剤を田植え時に処理する。
- ◆いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、フジワン粒剤、コラトップ粒剤5などを散布する。
- ◆発生を認めたらブラシフロアブルなどを散布する。

### 縞葉枯病（ヒメトビウカ）



縞葉枯病発病株



ヒメトビウカ※

#### 特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウカにより媒介される。
- ◆り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する（ゆうれい症状）。

#### 防除のポイント

- ◆ヒメトビウカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆箱施用剤等により、ヒメトビウカの防除を徹底する。

### スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝



卵塊

生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」をご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## 果樹

## ぶどう

## 灰色かび病



果実被害

## 特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子(分生胞子)が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

## 防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ピクシオDFなどを散布する。

## べと病



葉被害

## 特徴

- ◆雨が多いと発生しやすいので、梅雨など雨が続くとまん延しやすい。

## 防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要。
- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフロアブル、レーバスフロアブル、ゾーベックエニケードなどを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、葉害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

## クワゴマダラヒトリ



幼虫

## 特徴

- ◆成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。越冬は、主に5齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。食害のピークは5月だが、引き続き発生に注意が必要である。

## 防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点が加害されると、特に被害が大きいので初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。



## 果樹

## ぶどう

## チャノキイロアザミウマ



被害果実

## 特徴

- ◆巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいので注意する。

## 防除のポイント

- ◆コルト顆粒水和剤、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。  
注) 幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがある

## もも

## せん孔細菌病

せん孔細菌病の特徴および防除方法については、下記リンク先の

3月25日発表の防除情報「せん孔細菌病(もも)の発生に注意」をご確認ください。

☞ <http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0203%20momo%20senkou.pdf>

## シンクイムシ類



被害果

## 特徴

- ◆ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

## 防除のポイント

- ◆被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆産卵期から幼虫加害期(5月上旬～7月下旬)にモスピラン顆粒水溶剤、アディオン乳剤、ダントツ水溶剤、テツパン液剤などを散布する。

## 果樹

## 温州みかん

## 黒点病



被害果

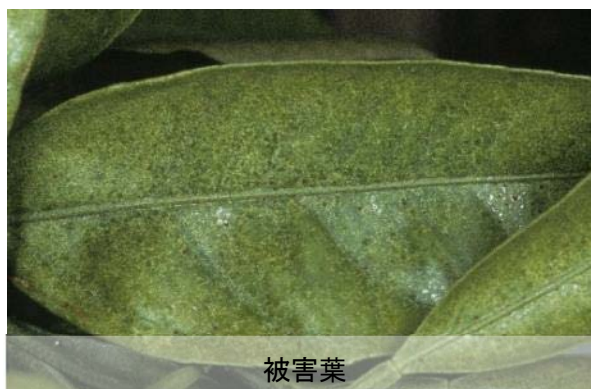
## 特徴

- ◆梅雨期など降雨が多くなると発生が増加する。

## 防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。  
※かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

## ミカンハダニ



被害葉

## 特徴

- ◆梅雨明け後に発生が多くなる。

## 防除のポイント

- ◆6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールSなどのマシン油剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

## カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害

## 特徴

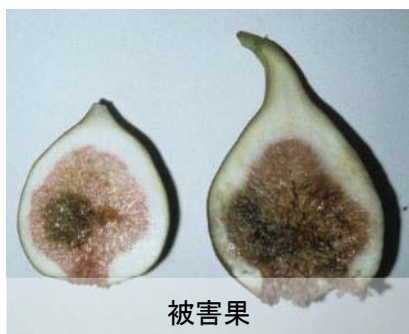
- ◆ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)などが加害する。

## 防除のポイント

- ◆幼虫発生期にアプロードフロアブル(幼虫のみ)、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤、コルト顆粒水和剤などを散布する。

## いちじく

## アザミウマ類



被害果

## 特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。
- ◆5月下旬～6月中旬頃が発生のピークになる。

## 防除のポイント

- ◆5月下旬からスピノエース顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

## 果樹類全般

## 果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

## 特徴

- ◆チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

## 防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオン乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）を散布する。

注）作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

## バラ科果樹（もも、うめ、すもも等）

## クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法については、下記リンク先の令和2年5月13日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」をご確認ください。

☞ <http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyojyouhou/R0205kubiaka.pdf>

## なす

## すすかび病



## 特徴

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

## 防除のポイント

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、トリフミン乳剤、カンタスドライフロアブルなどを散布する。

## うどんこ病



## 特徴

- ◆窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤などを散布する。

## 灰色かび病

令和2年5月26日発表の防除情報  
「なす灰色かび病に注意！」をご確認ください。  
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0205haikabi.pdf>

## アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

## 特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

## 防除のポイント

- ◆ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆露地栽培では、天敵昆虫の温存のため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
- ◆発生を認めたら、アフーム乳剤、ディアナSC、プレオフロアブル、モベントフロアブルなどを散布する。



## 野菜

## トマト・ミニトマト

## 葉かび病・すすかび病



## 特徴

◆ハウスなどの多湿な環境で、日照不足や樹勢が落ちると発生しやすい。

## 《すすかび病》

◆葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

## 灰色かび病



## 特徴

◆20℃くらいの多湿時に発生が多い。花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

## 防除のポイント

◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やアフエツトフロアブルなどを散布する。

## うどんこ病



## 特徴

◆施設栽培で発生が多い。窒素過多で曇天が続くと発生する。

## 防除のポイント

◆発生が見られたら、パンチョTF顆粒水和剤、アフエツトフロアブル、トリフミン乳剤を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。



## トマト・ミニトマト

## コナジラミ類



タバココナジラミ ※

## 特徴

- ◆タバココナジラミがTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

## 防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ベストガード水溶剤、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤などを散布する。

## 野菜類・花き類全般

## シロイチモジヨトウ

令和元年6月10日発表の防除情報  
「シロイチモジヨトウに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0106shiroiti.pdf>

## ハスモンヨトウ



若齢幼虫

## 特徴

- ◆8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アディオソニル乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については  
「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto\\_l.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf)

## コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

## 特徴

- ◆主にアブラナ科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

## 防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（非結球アブラナ科葉菜類など）、ディアナSC（非結球アブラナ科葉菜類など）などを散布する。

## アブラムシ類



ワタアブラムシ ※

## 特徴

- ◆作物を吸汁し、樹勢を弱らせる。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、アドマイヤー顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、豆類（未成熟）など）、コルト顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）

## きく

## 白さび病



## 特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

## 防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
  - ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
  - ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める
  - ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

## 黒斑病、褐斑病



## 特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

## 防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
  - ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

## アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ(成虫)※

## 特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病(TSWV、GSNV)を媒介する。

## 防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。